別紙1-1 専門研修課程 I

研修課目	目的	内容	時間数	講師・指導者
〇ケアマネジメ		・各自の実践を省みる事により、ケアマネジ	講義及び	介護保険制度に
ントにおける	ての実践の振り返りを通	 メントプロセスにおける各項目の持つ意味と	演習8時	おける介護支援
実践の振り	じて、ケアマネジメントプ	 重要性に関して再確認し課題等を認識する	間	専門員や居宅及
返り及び課	ロセスを再確認し、専門	ための講義を行う。		び施設サービス
題の設定	職としての自らの課題を	 専門職としての知識・技術を高めていく上		等について十分
	理解する。	での克服すべき課題等を認識する講義を行		理解をし、相当の
	また、ケアマネジメン	う。		知見を有する者。
	トプロセスに関する最新	・振り返りに当たっては、担当事例を活用す		
	の知見を確認し、実践の	ることとし、担当事例におけるケアマネジメ		日本介護支援専
	あり方の見直しを行う。	ントの視点(アセスメントの結果から課題(ニ		門員協会が実施
		ーズ)を導き出すまでの考え方、当該課題		する主任介護支
		(ニーズ)に対するサービスの選定理由等)		援専門員指導者
		を発表し、他の受講者との意見交換を通じ		研修会修了者。
		て、自分自身の技量における課題を認識・		
		理解する。		主任介護支援専
		・質の評価やデータ活用を行いながら、科学		門員。
		的に効果が裏付けられた質の高いサービス		
		の提供に向けた現状の取組及び課題につ		三重県介護支援
		いての講義を行う。		専門員実務研修
		0 0011111111111111111111111111111111111		31 35050333115
〇介護保険制	介護保険制度の最新	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括	講義3時	指導者。
	介護保険制度の最新 の動向、地域包括ケアシ		講義3時間	
度及び地域		・介護保険制度の改正等の状況、地域包括		
度及び地域 包括ケアシ	の動向、地域包括ケアシ	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括 ケアシステムの構築や地域共生社会の実		指導者。
度及び地域 包括ケアシ	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括 ケアシステムの構築や地域共生社会の実 現に向けた現状の取組及び課題に関する		指導者。 三重県内の事業
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共 生社会の実現に向けた	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括 ケアシステムの構築や地域共生社会の実 現に向けた現状の取組及び課題に関する 講義を行う。		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する国
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する国 または三重県ケ
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関す		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する国 または三重県ケ アマネジメントリ
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開にお	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する国 または三重県ケ アマネジメントリ ーダー研修修了
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員とし	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する国 または三重県ケ アマネジメントリ ーダー研修修了
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくそ		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する国 または三重県ケ アマネジメントリ ーダー研修修了 者。
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシ	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であるこ		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する国 または三重県ケ アマネジメントリ 一ダー研修修了 者。
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立		指導者。 三重県内の事業 所で勤務する県 アマネシリーダー イン・アン・リーダー イン・アン・リーダー イン・アン・リーター イン・アン・リーター イン・アン・リーター イン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援してい	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立支援等利用者の家族も含めた支援に関連		指導者。 三重県内の事業 所では三重が またママーダーを を を を を を を を を を を を を を を を を を を
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援していくに当たって、関連する	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立支援等利用者の家族も含めた支援に関連する各種制度や社会資源、介護支援専門		指導者。 三重集内の事業所では、 事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援していくに当たって、関連する	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立支援等利用者の家族も含めた支援に関連する各種制度や社会資源、介護支援専門員に求められる役割に関する講義を行う。		指導者。 三重集内の事業所では、 事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援していくに当たって、関連する	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立支援等利用者の家族も含めた支援に関連する各種制度や社会資源、介護支援専門員に求められる役割に関する講義を行う。・フォーマルだけでなくインフォーマルな社会		指導者。 三重集内の事業所では、 事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事業の事
度及び地域 包括ケアシ ステムの現	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援していくに当たって、関連する	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立支援等利用者の家族も含めた支援に関連する各種制度や社会資源、介護支援専門員に求められる役割に関する講義を行う。・フォーマルだけでなくインフォーマルな社会資源との連携やそれらの活用と働きかけに	間	指導者。 三重所までである県外の事る県外が重がはれる。 一番ののではないできません。 一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、
度及び地域 包括ケアシステムの現状	の動向、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域関や地域を理解を表示の関わりを選支援を理解する。また、地域で、利用者で、システムの中で、利用者で、対しての家族を支援していくに当たって、関連する。制度等を理解する。	・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立支援等利用者の家族も含めた支援に関連する各種制度や社会資源、介護支援専門員に求められる役割に関する講義を行う。・フォーマルだけでなくインフォーマルな社会資源との連携やそれらの活用と働きかけに関する講義を行う。	間	指導者。 三重ではなって、 一者。 を関するはが、 一者。 をのではなって、 一者。 をのではなって、 一句では、 一句でも。 一句では、 一句では、 一句では、 一句では、 一句では、 一句では、 一句では、 一句では、 一句では、 一句では、 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。

スワーク)及	(コミュニティソーシャル	ク)に必要な知識・技術及び地域援助技	
び地域援助	ワーク)の違いと	術(コミュニティソーシャルワーク)の展開	
技術(コミュ	役割を理解する。	技法についての講義を行う。	
ニティソーシ		・個別事例の支援から地域課題の把握、課	
ャルワーク)		題の共有、課題解決に向けた地域づくり	
		や資源開発などに至る一連のプロセスに	
		関する講義を行う。	
		・実際に取り組む場である地域ケア会議の	
		意義や機能及び一連のプロセスの中にお	
		ける介護支援専門員としての役割に関す	
		る講義を行う。	
		・個別事例の支援や地域課題の把握から解	
		決に向け、保険者を含む多職種連携の意	
		義やネットワーク作りの視点と方法に関す	
		る講義を行う。	
〇ケアマネジメ	ケアマネジメントを実	・ケアマネジメントを実践する上で介護支援	講義3時
ントの実践	践する上で感じた倫理的	専門員が備えるべき、利用者本位、自立支	間
における倫	な課題や、認知症や終	援、公正中立、人権の尊重、守秘義務、利	
理	末期、身寄りのない高齢	用者のニーズの代弁等の倫理に関する講	
	者など、意思決定支援	義を行う。	
	の必要性を踏まえ、チー	・ケアマネジメントを実践する上で生じうる具	
	ムで対応していく際のチ	体的な倫理的課題に対する心構えや対応	
	ームアプローチの方法	方法についての講義を行う。	
	及び高齢者の権利を擁	・認知症、身寄りのない高齢者、看取りのケ	
	護する上で必要な制度	ース等における意思決定支援の必要性や	
	等を理解する。	意思決定に向けた支援プロセスに関する講	
		義を行う。	
		・倫理的な課題に対するチームアプローチ	
		の重要性を認識し、その手法に関する講義	
		を行う。	
		・成年後見制度や高齢者虐待防止法等、高	
		齢者の尊厳や権利擁護に関する講義を行	
		う 。	
〇生活の継続		・ケアマネジメントを実践する上で必要な疾	講義4時
	医療との連携や多職種	病や医療との連携、多職種協働の必要性・	間
	協働に関する課題を踏	重要性を再確認するための講義を行う。	
	まえ、今後の実践に向	・これまでの実践を省みて課題を認識し、医	
	けて必要な知識・技術	療との連携や多職種協働を実践していくた	
の実践	を理解する。	めの課題解決の方法に関する講義を行う。	
		・介護支援専門員から医療機関や多職種に	
		情報を提供する際の留意点及び、医療機関	

		や多職種から情報を収集する際の留意点に	
		ついての講義を行う。	
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		ける多職種との効果的な協働の手法に関す	
		る講義を行う。	
○リハビリテー	リハビリテーションや	・リハビリテーション(口腔リハビリテーション	講義2時
		を含む。)や福祉用具等に関する基礎知識	間
		の向上と活用に当たっての基本的な視点に	IE)
	での基本的な視点を		
る理解	理解する。	・リハビリテーション専門職及び福祉用具専	
·0/±/14	24H 9 0 0	門相談員等との連携方法等に関する講義を	
		行う。	
 ○ケアマネジメ	古齢老の仕頭 心理	177。 	選挙 ひづ
	生活環境などの構造的		
	な理解を踏まえたケアマ		旧
	スジメント手法を修得す		
を支える基		講義を行う。	
本的なケア		・「適切なケアマネジメント手法」の基本的な	
マネジメント		考え方及び疾患の有無に関わらず、高齢	
		者の機能と生理に基づく在宅のケアマネ	
		ジメントやその前提となる多職種との情報	
		共有において必要な視点、想定される支	
		援内容を整理した「基本ケア」について理	
		解する。	
		・それらの関係性を踏まえたアセスメント、課	
		題分析の視点、居宅サービス計画等への	
		具体的な展開方法など、支援に当たって	
		のポイントを理解する。	
		・高齢者の代表的な疾患や症候群別のケア	
		マネジメントを学ぶことの有効性について	
		理解する。	
		・高齢者の生理、心理、生活環境等の構造	
		的な理解を踏まえたケアマネジメントに関	
		する1つの事例について様々な状況等を	
		勘案した、実践しうる複数の対応策(居宅	
		サービス計画の作成)が検討できるよう、	
		必要な知識・技術を修得する。	
・脳血管疾患	脳血管疾患の特徴を	・脳血管疾患の分類、症状、後遺症、生活	講義及び
のある方の	理解するとともに、望む	障害の程度と身体機能の関係、廃用症候群	演習3時
ケアマネジメ	生活を継続するための	との関係性についての講義を行う。	間
ント	ケアマネジメントにおけ	・脳血管疾患における療養上の留意点や起	

	る留意点を踏まえたケア	こりやすい課題について理解する。	
	マネジメント手法を修得	・脳血管疾患に特有な検討の視点や想定さ	
	する。	れる支援内容を整理した「適切なケアマネジ	
		メント手法」の「疾患別ケア(脳血管疾患が	
		ある方のケア)」について理解する。	
		・脳血管疾患がある方のケアマネジメントに	
		関する1つの事例について様々な状況等を	
		勘案した、実践しうる複数の対応策(居宅サ	
		ービス計画の作成)が検討できるよう、必要	
		な知識・技術を修得する。	
・認知症のある	認知症の特徴を理解	・認知症や精神疾患に関する医学的・心理	講義及び
方及び家族	するとともに、望む生活	的基礎知識の向上と認知症施策に関わる	演習4時
等を支える	を継続するためのケアマ	多職種との連携方法等に関する講義を行	間
ケアマネジメ	ネジメントにおける留意	う。	
ント	点を踏まえたケアマネジ	・認知症等の特質性を踏まえた早期の対応	
	メント手法を修得する。	方法や家族も含めた支援方法などを修得す	
		るとともに、地域で生活を継続していくため	
		の支援を行う上で必要な視点を理解する。	
		・認知症に特有な検討の視点や想定される	
		支援内容を整理した「適切なケアマネジメン	
		ト手法」の「疾患別ケア(認知症がある方の	
		ケア)」について理解する。	
		・認知症がある方のケアマネジメントに関す	
		る1つの事例について様々な状況等を勘案	
		した、実践しうる複数の対応策(居宅サービ	
		ス計画の作成)が検討できるよう、必要な知	
		識・技術を修得する。	
• 大 腿 骨 頸 部	大腿骨頸部骨折の特	・大腿骨頸部骨折の原因、症状、生活をす	講義及び
骨折のある	徴を理解するとともに、	る上での障害及び予防方法に関する講義を	演習3時
方のケアマ	望む生活を継続するた	行う。	間
ネジメント	めのケアマネジメントに	・その他の筋骨格系疾患の種類、原因、症	
	おける留意点を踏まえた	状、生活をする上での障害及び予防改善方	
	ケアマネジメント手法を	法や、廃用症候群の原因、生活をする上で	
	修得する。	の障害及び予防改善方法に関する講義を	
		行う。	
		・大腿骨頸部骨折における療養上の留意点	
		や起こりやすい課題について理解する。	
		・大腿骨頸部骨折に特有な検討の視点や想	
		定される支援内容を整理した「適切なケアマ	
		ネジメント手法」の「疾患別ケア(大腿骨頸部	
		骨折がある方のケア)」の内容を理解する。	

		・大腿骨頸部骨折がある方のケアマネジメ	
		ントに関する1つの事例について様々な状	
		況等を勘案した、実践しうる複数の対応策	
		(居宅サービス計画の作成)が検討できるよ	
		う、必要な知識・技術を修得する。	
・心疾患のある	心不全につながる心	・心疾患の種類、原因、症状、生活をする上	講義及び
方のケアマ	疾患の特徴を理解する	での障害及び 予防改善方法に関する講義	演習4時
ネジメント	とともに、望む生活を継	を行う。	間
	続するためのケアマネ	・心疾患における療養上の留意点や起こり	
	ジメントにおける留意点	やすい課題について理解する。	
	を踏まえたケアマネジメ	・心疾患に特有な検討の視点や想定され	
	ント手法を修得する。	る支援内容を整理した「適切なケアマネジメ	
		ント手法」の「疾患別ケア(心疾患がある方	
		のケア)」の内容を理解する。	
		- 心疾患を有する方のケアマネジメントに関	
		する1つの事例について様々な状況等を勘	
		案した、実践しうる複数の対応策(居宅サー	
		ビス計画の作成)が検討できるよう、必要な	
		知識・技術を修得する。	
•誤嚥性肺炎	誤嚥性肺炎の特徴を	・誤嚥性肺炎の特徴や誤嚥性肺炎の予防	講義及び
予防のケア	理解するとともに、望む	のためのケアマネジメントにおける留意点や	演習3時
マネジメント	生活を継続するための	起こりやすい課題を踏まえた支援に当たっ	間
	ケアマネジメントにおけ	てのポイントに関する講義を行う。	
	る留意点を踏まえたケア	・誤嚥性肺炎の予防における「適切なケアマ	
	マネジメント手法を修得	ネジメント手法」の「基本ケア」の重要性を再	
	する。	確認する講義を行う。	
		・誤嚥性肺炎の予防における検討の視点や	
		想定される支援内容を整理した「適切なケア	
		マネジメント手法」の「疾患別ケア(誤嚥性	
		肺炎の予防のためのケア)」の内容を理解	
		する。	
		・誤嚥性肺炎の予防のためのケアマネジメ	
		ントに関する1つの事例について様々な状	
		況等を勘案した、実践しうる複数の対応策	
		(居宅サービス計画の作成)が検討で きる	
		よう、必要な知識・技術を修得する。	
・看取り等にお	看護サービスの活用	・看護サービスに関する基礎知識の向上と	講義及び
ける看護サ	が必要な事例を用いて	活用に当たっての基本的な視点に関する講	演習3時
ービスの活	 講義・演習を行うことによ	 義を行う。	間
田に関する	開我 英日と リブここによ		
שי ל ואו ביו נוו	り、看護サービスの活用	訪問看護計画との関連付けや看護職との	

	I		1
	ジメント手法を修得す	・看取り等における看護サービスの活用に	
	ె ం.	関する事例を用いて、適切なアセスメントを	
		行う際の重要なポイントや地域の社会資源	
		を活用したケアマネジメントを実践する知	
		識・技術を修得する。	
		・1つの事例について様々な状況等を勘案し	
		た、実践しうる複数の対応策(居宅サービス	
		計画の作成)が検討できるよう、必要な知	
		識・技術を修得する。	
・家族への支	家族への支援の視点	・単なるレスパイトだけでなく今後の介護に	講義及び
援の視点や	や社会資源の活用に向	対する不安や利用者、家族同士の軋轢へ	演習4時
社会資源の	けた関係機関との連携	の介入など家族支援における基本的な視点	間
活用に向け	が必要な事例の特徴、	に関する講義を行う。	
た関係機関	関連する施策の内容や	・他法他制度(難病施策、高齢者虐待防止	
との連携が	動向、対応する際の留	関連施策、障害者施策、生活困窮者施策、	
必要な事例	意点等を踏まえたケアマ	仕事と介護の両立支援施策、 ヤングケアラ	
のケアマネ	ネジメント手法を修得す	一支援関連施策、重層的支援体制整備事	
ジメント	る。	業関連施策等)の知識やインフォーマルサ	
		一ビスの活用に係る視点が必要な事例の特	
		徴、対応する際の留意点について理解す	
		る。	
		・関連する他法他制度の内容や動向に関す	
		る講義を行う。	
		・他法他制度の活用が必要な事例のケアマ	
		ネジメントを行う際の社会資源の活用に向	
		けた関係機関や多職種との連携、相互理解	
		の必要性、状態に応じた多様なサービスの	
		活用方法について理解する。	
		 ・他法他制度の活用が必要な事例のケアマ	
		 ネジメントに関する1つの事例について様々	
		 な状況等を勘案した、実践しうる複数の対	
		応策(居宅サービス計画の作成)が検討で	
		 きるよう、必要な知識・技術を修得する。	
〇個人での学	指導・支援、コーチン	 ・個人で専門性を高めていく際に必要な視	講義3時
習及び介護	グ、スーパービジョン等	点、手法に関する講義を行う。	間
	の違いを踏まえ、自らが	・指導支援、コーチング、スーパービジョン等	
		の基本的な考え方、内容、方法を理解する	
習		とともに、これらを受ける側と行う側双方に	
_	法定外研修やOJT等を	求められる姿勢に関する講義を行う。	
	通じて、専門職として不	・個人で研鑽する場合と介護支援専門員相	
		互間で研鑚する場合に求められる内容や手	
	ロッカロ りゅうはい フレー	一一一 こうまん / しつ 口 にんいりつかいできる	

			1
	の重要性を理解する。	法とその関係性についての講義を行う。	
		・専門職として継続した自己研鑚を行うこと	
		の必要性重要性について講義を行う。	
		・研修において獲得した知識・技術につい	
		て、更なる実践力を身につけるため、法定	
		外研修やOJT等を活用した、具体的な自己	
		研鑚の実施方法、地域における学びの場や	
		機会の状況等についての講義を行う。	
〇研修全体を	研修全体を通じた振り	・研修全体の振り返りを行うに当たって、グ	講義及び
振り返って	返りを行うことで、今後	ループ又は全体で意見交換を行い、専門的	演習2時
の意見交	の学習課題を認識し、自	助言を含めて、研修における学習の成果や	間
換、講評及	己研鑚の意欲を高める。	今後の学習課題への意識付けのための講	
びネットワー	また、研修受講者間での	評を行う。	
ク作り	ネットワークの構築を図	・現場で生じうる課題への対応や共同で研	
	る。	修する機会を作るため、研修受講者間にお	
		いてネットワークの構築を図る。	

別紙1—2 専門研修課程Ⅱ

研修課目	目的	内 容	時間数	講師•指導者
〇介護保険制度	介護保険制度の最新	・介護保険制度の改正等の最新状況、地域	講義3時	介護保険制度に
及び地域包括	の動向、地域包括ケアシ	包括ケアシステムの構築や地域共生社	間	おける介護支援
ケアシステム	ステムの構築や地域共	会の実現に向けた現状の取組及び課題		専門員や居宅及
の今後の展開	生社会の実現に向けた	についての講義を行う。		び施設サービス
	現状の取組を理解した	・地域包括ケアシステムの構築に向けて、		等について十分
	上で、今後の地域包括	介護支援専門員が果たすべき役割に関		理解をし、相当の
	ケアシステムの展開にお	する講義を行う。		知見を有する者。
	ける介護支援専門員とし	・利用者やその家族を支援する上で関連す		日本介護支援専
	ての関わりを理解する。	る最新の制度、動向及び社会資源に関す		門員協会が実施
	また、地域包括ケアシ	る講義を行う。		する主任介護支
	ステムの中で、利用者及	・介護保険制度や介護支援専門員を取り巻		援専門員指導者
	びその家族を支援してい	く状況など現状で課題となっている事項に		研修会修了者。
	くに当たって、関連する	関する講義を行う。		主任介護支援専
	制度等を理解する。			門員。
〇ケアマネジメン	高齢者の権利を擁護	・介護支援専門員が備えるべき、利用者本	講義2時	三重県介護支援
トの実践にお	する上で必要な制度等	位、自立支援、公正中立、人権の尊重、	間	専門員実務研修
ける倫理	に関する動向を確認す	守秘義務、利用者のニーズの代弁等の		指導者。
	るとともに、ケアマネジメ	倫理に関する講義を行う。		三重県内の事業
	ントを実践する上で感じ	・高齢者の権利擁護や意思決定支援(認知		所で勤務する国
	た倫理的な課題の振り	症、身寄りのない高齢者、看取りのケース等)に		または三重県ケ
	返りを行い、実践のあり	関する制度等に関する講義を行う。		アマネジメントリ
	方の見直しを行う。	・倫理的な視点を含めたケアマネジメントの		ーダー研修修了
		実践のあり方についての講義を行う。		者。
Oリハビリテーシ	リハビリテーションや	・リハビリテーションや福祉用具等を活用す	講義2時	その他研修講
ョン及び福祉	福祉用具等を活用する	るに当たって重要となる関連知識や歯科	間	師、演習指導の
用具等の活用	に当たっての知識や関	医師、リハビリテーション専門職等との連		実績等を勘案し
に関する理解	連職種との連携方法、イ	携方法に関する講義を行う。		甲が適当と認め
	ンフォーマルサービスも	・リハビリテーションや福祉用具等の活用を		た者。
	含めた地域の社会資源	検討するに当たり、効果的なものとなるよ		
	を活用したケアマネジメ	うインフォーマルサービスも含めた地域の		特定の課目につ
	ントについて理解する。	社会資源を活用したケアマネジメントの展		いては、国の要
		開に関する講義を行う。		綱に基づく講師で
〇ケアマネジメン	「適切なケアマネジメ	・「適切なケアマネジメント手法」の基本的な	講義及び	あること。
トにおける実	ント手法」の「基本ケア」	考え方及び高齢者が有する疾患に関係	演習2時	
践事例の研究	の内容を踏まえたアセス	なく想定される支援内容及び多職種との	間	
及び発表	メントや居宅サービス計	情報共有において必要な視点を整理した		
・生活の継続及	画等の作成ができ、他の	「基本ケア」について理解する。		
び家族等を支	事例にも対応できる知	・インフォーマルサービスも含めた地域の社		
える基本的な	識・技術を修得する。	会資源を活用したケアマネジメントの展開		
•	•			

ケアマネジメン		に関する講義を行う	
١	ļ	・各自が担当している事例(居宅サービス計	
		画等)を持ち寄り、「基本ケア」の内容を踏	
		まえた事例の分析、発表、意見交換等を	
		通じて、適切なアセスメントを行う際の留	
		意点や居宅サービス計画等の作成にお	
		ける留意点を理解、再確認する。それら	
		の留意点や必要に応じ根拠となる各種統	
		計データを活用する等により、別の類似	
		の事例等にも広く対応することができる知	
		識・技術を修得する。	
・脳血管疾患の	脳血管疾患の特徴を	・脳血管疾患に特有な検討の視点や想定さ	講義及び
ある方のケア	理解するとともに、望む	れる支援内容を整理した「適切なケアマ	演習3時
マネジメント	生活を継続するための	ネジメント手法」の「疾患別ケア(脳血管疾	間
	ケアマネジメントにおけ	患がある方のケア)」について理解する。	
	る留意点を踏まえたケア	・インフォーマルサービスも含めた地域の社	
	マネジメント手法を修得	会資源を活用したケアマネジメントの展開	
	する。	に関する講義を行う	
	また、「適切なケアマ	・各自が担当している脳血管疾患がある方	
	ネジメント手法」の「疾患	のケアマネジメントに関する事例(居宅サ	
	別ケア(脳血管疾患があ	ービス計画等)を持ち寄り、「疾患別ケア	
	る方のケア)」の内容を	(脳血管疾患がある方のケア)」の内容を	
	踏まえたアセスメントや	踏まえ、事例の分析、発表、意見交換等	
	居宅サービス計画等の	を通じて、適切なアセスメントを行う際の	
	作成ができ、他の事例に	留意点や居宅サービス計画等の作成に	
	も対応できる知識・技術	おける留意点を理解、再確認する。それ	
	を修得する。	らの留意点や必要に応じ根拠となる各種	
		統計データを活用する等により、別の類	
		似の事例等にも広く対応することができる	
		知識・技術を修得する。	
・認知症のある	認知症の特徴や療養	・認知症の要介護者等及び家族を支援する	講義及び
方及び家族等	上の留意点、起こりやす	に当たり重要となる各種知識及び医療職	演習4時
を支えるケア	い課題の理解を踏まえ	をはじめとする多職種や地域住民との連	間
マネジメント	たケアマネジメント手法	携方法に関する講義を行う。	
	を修得する。	・認知症に特有な検討の視点や想定される	
	また、「適切なケアマ	支援内容を整理した「適切なケアマネジメ	
	ネジメント手法」の「疾患	ント手法」の「疾患別ケア(認知症がある	
	別ケア(認知症がある方	方のケア)」の内容を理解する。	
	のケア)」の内容を踏ま	・インフォーマルサービスも含めた地域の社	
	えたアセスメントや居宅	会資源を活用したケアマネジメントの展開	
	サービス計画等の作成	に関する講義を行う	

	レンナール A またい・1 !!	な 点 1810 N/1 ー・・フェッケー 土 ゲー・・・・・・・	
	ができ、他の事例にも対	・各自が担当している認知症等により生活	
	応できる知識・技術を修	障害がある方のケアマネジメントに関する	
	得する。	事例(居宅サービス計画等)を持ち寄り、	
		「疾患別ケア(認知症がある方のケア)」	
		の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意	
		見交換等を通じて、適切なアセスメントを	
		行う際の留意点や居宅サービス計画等	
		の作成における留意点を理解、再確認す	
		る。それらの留意点や必要に応じ根拠と	
		なる各種統計データを活用する等により、	
		別の類似の事例等にも広く対応すること	
		ができる知識・技術を修得する。	
・大腿骨頸部骨		・大腿骨頸部骨折に特有な検討の視点や想	
折のある方の	徴を理解するとともに、	定される支援内容を整理した「適切なケア	演習3時
ケアマネジメン	望む生活を継続するた		間
٢	めのケアマネジメントに	頸部骨折がある方のケア)」の内容を理	
	おける留意点を踏まえた	解する。	
	ケアマネジメント手法を	・インフォーマルサービスも含めた地域の社	
	修得する。	会資源を活用したケアマネジメントの展開	
	また、「適切なケアマ	に関する講義を行う。	
	ネジメント手法」の「疾患	・各自が担当している大腿骨頸部骨折のあ	
	別ケア(大腿骨頸部骨折	る方のケアマネジメントに関する事例(居	
	がある方のケア)」の内	宅サービス計画等)を持ち寄り、「疾患別	
	容を踏まえたアセスメン	ケア(大腿骨頸部骨折がある方のケア)」	
	トや居宅サービス計画等	の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意	
	の作成ができ、他の事例	見交換等を通じて、適切なアセスメントを	
	にも対応できる知識・技	行う際の留意点や居宅サービス計画等	
	術を修得する。	の作成における留意点を理解、再確認す	
		る。それらの留意点や必要に応じ根拠と	
		なる各種統計データを活用する等により、	
		別の類似の事例等にも広く対応すること	
		ができる知識・技術を修得する。	
・心疾患のある	心不全につながる心	・心疾患に特有な検討の視点や想定される	講義及び
方のケアマネ	疾患の特徴を理解する	支援内容を整理した「適切なケアマネジメ	演習3時
ジメント	とともに、望む生活を継	ント手法」の「疾患別ケア(心疾患がある	間
	続するためのケアマネジ	方のケア)」の内容を理解する。	
	メントにおける留意点を	・インフォーマルサービスも含めた地域の社	
	踏まえたケアマネジメン	会資源を活用したケアマネジメントの展開	
	ト手法を修得する。	に関する講義を行う	
		・各自が担当している心疾患を有する方の	
	ネジメント手法」の「疾患		
			L

	別ケア(心疾患がある方	ビス計画等)を持ち寄り、「疾患別ケア(心	
	のケア)」の内容を踏ま	疾患がある方のケア)」の内容を踏まえ、	
	えたアセスメントや居宅	事例の分析、発表、意見交換等を通じ	
	サービス計画等の作成	て、適切なアセスメントを行う際の留意点	
	ができ、他の事例にも対	や居宅サービス計画等の作成における留	
	応できる知識・技術を修	意点を理解、再確認する。それらの留意	
	得する。	点や必要に応じ根拠となる各種統計デー	
		タを活用する等により、別の類似の事例	
		等にも広く対応することができる知識・技	
		術を修得する。	
・誤嚥性肺炎の	誤嚥性肺炎の特徴を	・誤嚥性肺炎の予防における「適切なケアマ	講義及び
予防のケアマ	理解するとともに、望む	ネジメント手法」の「基本ケア」の重要性を	演習3時
ネジメント	生活を継続するための	再確認する講義を行う。	間
	ケアマネジメントにおけ	・誤嚥性肺炎の予防における検討の視点や	
	る留意点を踏まえたケア	想定される支援内容を整理した「適切な	
	マネジメント手法を修得	ケアマネジメント手法」の「疾患別ケア(誤	
	する。	嚥性肺炎の予防のためのケア)」の内容	
	また、「適切なケアマ	を理解する。	
	ネジメント手法」の「疾患	・インフォーマルサービスも含めた地域の社	
	別ケア(誤嚥性肺炎の予	会資源を活用したケアマネジメントの展開	
	防のためのケア)」の内	に関する講義を行う。	
	容を踏まえたアセスメン	・各自が担当している誤嚥性肺炎の予防の	
	トや居宅サービス計画等	ためのケアマネジメントに関する事例(居	
	の作成ができ、他の事例	宅サービス計画等)を持ち寄り、「疾患別	
	にも対応できる知識・技	ケア(誤嚥性肺炎の予防のためのケア)」	
	術を修得する。	の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意	
		見交換等を通じて、適切なアセスメントを	
		行う際の留意点や居宅サービス計画等	
		の作成における留意点を理解、再確認す	
		る。それらの留意点や必要に応じ根拠と	
		なる各種統計データを活用する等により、	
		別の類似の事例等にも広く対応すること	
		ができる知識・技術を修得する。	
・看取り等におけ	看護サービスの活用	・各自が担当している看護サービスを組み	講義及び
る看護サービ	が必要な事例を用いて	入れた居宅サービス計画等を持ち寄り、	演習3v時
スの活用に関	講義・演習を行うことに	事例に関して分析した内容の発表、意見	間
する事例	より、看護サービスの活	交換等を通じて、適切なアセスメントを行	
	用に係る知識及び効果	う際の留意点や居宅サービス計画等の	
	的なケアマネジメント手	作成における留意点を理解、再確認す	
	法を修得する。	る。それらの留意点や必要に応じ根拠と	
	また、演習等で得られ	なる各種統計データを活用する等により、	

た看護サービスの活用 別の類似の事例等にも広く対応すること に係る示唆、留意点等を ができる知識・技術を修得する。 踏まえ、他の事例にも対
・看取り等を含む看護サービスを活用する 応することができる知 に当たって重要となる各種知識や医師、 識・技術を修得する。 看護師等との連携方法に関する講義を行 う。 看取り等を含む看護サービスを検討する に当たり、効果的なものとなるようインフォ ーマルサービスも含めた地域の社会資源 を活用したケアマネジメントの展開に関す る講義を行う。 家族への支援の視点 ・家族に対する支援に当たり重要となる各種 講義及び ・家族への支援 の視点や社会 や社会資源の活用に向 資源の活用に けた関係機関との連携 向けた関係機が必要な事例の特徴、 関との連携が関連する施策の内容や 必要な事例の動向、対応する際の留 ケアマネジメン 意点を踏まえたケアマネ ジメント手法を修得す また、演習等で得られ

知識や関係機関、地域住民をはじめとす 演習4時 る多職種との連携方法に関する講義を行間

た家族への支援や他法 唆、留意点等を踏まえ、 とができる知識・技術を

修得する。

- ·他法他制度(難病施策、高齢者虐待防止 関連施策、障害者施策、生活困窮者施 策、仕事と介護の両立支援施策、ヤング ケアラー支援関連施策、重層的支援体制 整備事業関連施策等)の活用が必要な事 例の特徴、対応する際の留意点に関する 講義を行う。
- 他制度の活用に係る示┃・関連する他法他制度の内容や動向に関す る講義を行う。
- 他の事例にも対応するこ・インフォーマルサービスも含めた地域の社 会資源を活用したケアマネジメントの展開 に関する講義を行う。
 - ・各自が担当している家族への支援の視点 や他法他制度の活用が必要な事例(居宅 サービス計画等)を持ち寄り、事例に関し て分析した内容の発表、意見交換等を通 じて、適切なアセスメントを行う際の留意 点や居宅サービス計画等の作成における 留意点を理解、再確認する。それらの留 意点や必要に応じ根拠となる各種統計デ 一タを活用する等により、別の類似の事 例等にも広く対応することができる知識・ 技術を修得する。

12

別紙2 主任介護支援専門員研修

研修課目	目的	内 容	時間数	講師·指導者
〇主任介護支	地域包括ケアシステム	・地域包括支援センター、居宅介護支援事業	講義5時	介護保険制度に
援専門員の	の構築や地域包括ケアを	 所等における主任介護支援専門員の役割	間	おける介護支援
役割と視点	実現するケアマネジメント	│ │ (地域や事業所の介護支援専門員に対す		専門員や居宅及
	を展開するに当たり、主	│ │ る個別支援、地域や事業所における人材		び施設サービス
	任介護支援専門員が果	 育成の実施、多職種等とのネットワークづ		等について十分
	たすべき役割を認識する	 くりや社会資源の開発などの地域づくり及		 理解をし、相当の
	とともに、その役割を担う	 びセルフケア・セルフマネジメントに関する		知見を有する者。
	上で必要な視点、知識及	 地域住民の意識づくり)について講義を行		
	び技術を修得する。 	う。		介護支援専門員
		・・。 ・事業所におけるケアマネジメントと地域包括		協会が実施する
		ケアシステムにおいて求められるケアマネ		主任介護支援専
		ジメントの違いに関する講義を行う。		門員指導者研修
		・介護支援専門員に対する指導・支援の視点		会修了者。
				云吟了台。
		及び地域されゲアンステムの構業に当た っての地域づくりに関する講義を行う。		主任介護支援専
		うての地域 うくりに関する講義を行う。 ・介護保険制度や利用者支援に係る周辺制		門員。
				门具。
		度について、最新の制度改正等の動向に 		
		関する講義を行う。		三重県介護支援
		・質の評価やデータ活用を行いながら、科学		専門員実務研修
		的に効果が裏付けられた質の高いサービ 		指導者。
		- への提供に向けた現状の収組及の味趣に - ついての講義を行う。		
〇ケアマネジメ	 介護支援専門員が直面		講義2時	三重県内の事業
	しやすい倫理的課題に対	再確認し、介護支援専門員が備えるべき		所で勤務する国
	し、どのような姿勢で対応	倫理を実践例を交えて講義を行う。	12	または三重県ケ
設における	すべきかについて指導・	・ケアマネジメントを行う際に直面する倫		アマネジメントリー
施設サービ	支援する技術を修得す	理的課題と対応方法について講義		ダー研修修了者。
ス計画の作	る。	う。		
成、サービス		・個別支援において生じた倫理面の課題に		その他研修講師、
の利用援助		対する指導・支援方法について講義を行		演習指導の実績
及び施設サ		う。		等を勘案し甲が
ービス計画				適当と認めた者。
の実施状況の想提業が				
の把握並び に介護予防				特定の課目につ
支援をいう。				いては、国の要綱
以下同じ。)				に基づく講師であ
の実践にお				ること。
ける倫理的				
な課題に対				
する支援				

〇終末期ケア	高齢者の生理、心理、	・「適切なケアマネジメント手法」の意義、基本	講義3時	
(EOL(エンド	生活環境などの構造的な	的な考え方を踏まえた、介護支援専門員	間	
オブライフ)	理解や疾患別のケアの	への指導・支援の方法や留意点に関する		
ケア)を含め	留意点、終末期ケアの基	講義を行う。		
た生活の継	本等を踏まえた介護支援	┃ ┃・終末期ケアの基本を理解し、居宅及び施設		
続を支える	 専門員への指導・支援や	│ │ における終末期ケアの課題や必要な視点		
基本的なケ	地域づくり等を行うため	 について講義を行う。		
アマネジメン	 に必要な知識・技術を修	│ │・終末期ケアで必要な看護サービス等を活用		
ト及び疾患		する際の視点や医療職をはじめとする多		
別ケアマネジ		│ │ 職種との連携方法・協働のポイントについ		
メントの理解		て講義を行う。		
	既の言いつさざかした	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	建業の味	
		・地域や事業所内における介護支援専門員		
び業務管理	提供し、事業所の適正な 運営等を図るための「人			
	事管理 「経営管理 に関			
	する知識の修得及び「人	The second secon		
	法を修得する。	必要なネットワークの構築方法に関する		
		講義を行う。		
		・事業所内における介護支援専門員に対す		
		る業務管理の意義・方法及び課題と対応		
		策について講義を行う。		
〇運営管理に	ケアマネジメントを実践	・ヒヤリハットの事例に基づき、ケアマネジメ	講義3時	
おけるリスク	する上で発生するリスク	ントを行う上で発生しうるリスクの予測とそ	間	
マネジメント	に対して、組織や地域と	の評価の手法について講義を行う。		
	して対応する仕組みの構	・地域や事業所におけるリスク軽減に向けた		
	築に必要な知識・技術を	 仕組みや体制の構築の手法について講義		
	修得する。 	 を行う。		
		 ・介護支援専門員に課せられている秘密保		
		持義務の規定を再確認し、個人情報の取		
		扱に係るリスクと関連制度について講義を		
		行う。		
		・自然災害や感染症が発生した場合の対応 に関する基本的な考え方や方法、対応体		
		に関する基本的な考え力や方法、対心体 制の構築に向けて必要な知識や方法につ		
		前の伸楽に向けて必要な知識や万法にう いて講義を行う。		
		✓ CHT+5% C I J J o		
	10.1441-10.00	1414 × 2/11 × 2 × 2 × 2 × 2 × 2 × 2 × 2 × 2 × 2 ×	=# ++^	
〇地域援助技		・地域づくりの意義と手法及び地域課題を		
術(コミュニテ	助技術(コミュニティソー			
L	シャルワーク)の実践が	について講義を行う。	間	

ィソーシャル	進むよう地域づくりの重	・地域課題の解決に向けた関係者によるネッ	
ワーク)	要性と主任介護支援専	トワークの機能や構築方法について講 義	
	門員の役割を理解すると	を行う。	
	ともに、地域課題の把握	・地域援助技術(コミュニティソーシャル ワー	
	方法、地域づくりに向け	ク)に関する介護支援専門員に対する指	
	た具体的な取組内容等	導·支援方法を修得する。	
	に係る必要な知識・技術	│ ├・地域ケア会議等を通じて把握した地域課	
	を修得する。	 題を解決するための地域援助技術(コミ	
		 ュニティソーシャルワーク)の展開につい	
		 て、基本的な考え方や方法を修得する。	
 D地域におけ	 地域において、医療と	 ・医療職をはじめとした多職種との協働にお	講義及び
	の連携や多職種協働が	ける工夫と留意点など成功例と失敗例を	
続を支えるた	*** いっ ひ ** * * * * * * * * * * * * * * * * *	参考にして連携・協働の仕組みづくりの重	
	専門員や多職種に対す		
めの医療と	る働きかけ、連携・協働	要性を理解する。	
の連携及び	の仕組みづくりに必要な	・・地域ケア会議が有している機能と、当該会	
多職種協働	知識・技術を修得する。	議を効果的に開催するための運営方法に	
の実現		関する講義を行う。	
		・行政との連携・協働に当たっての留意点に	
		関する講義を行う。	
		 ・多職種協働において関係する他法他制度	
		│ │ (難病施策、高齢者虐待防止関連施策、障	
		 害者施策、生活困窮者施策、仕事と介護	
		の両立支援施策、ヤングケアラー支援関	
		連施策、重層的支援体制整備事業関連施	
		策等)の概要と他法他制度を活用する際	
		の関係機関等との連携・協働に当たっての	
		- 104 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	
		留意点に関する講義を行う。	
		・日常的な実践における医療職をはじめとし	
		た多職種協働に関する介護支援専門員へ	
O 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		の指導・支援方法を修得する。	
〇対人援助者		・対人援助者監督指導(スーパービジョン)	
	(スーパービジョン)の機		演習18時
ーパービジョ	能(管理や教育、支援)を		間
ン)	理解し、実践できる知識・	の効果、介護支援専門員に対して対人援	
	技術を修得するとともに、	助者監督指導(スーパービジョン)を行う際	
	スーパーバイザーとして		
	主任介護支援専門員に		
	求められる姿勢を理解す	7 3 3	
	る。	・個人対人援助者監督指導(個人スーパー	
		ビジョン)と集団対人援助者監督指導(グ	
		ループスーパービジョン)の方法等を修	

		Г	ı
		得する。	
〇個別事例を	介護支援専門員に対す	・個々の事例に対する介護支援専門員のケ	講義及び
通じた介護	る指導・支援における	アマネジメントについて、主任介護支援	演習24時
支援専門員	様々な方法と関わり方に	専門員として指導・支援を行う際の様々	間
に対する指	ついて、その具体的方法	な方法(コーチング、ティーチング等) を修	
導・支援の展	や留意点を理解するとと	得するとともに、指導・支援を行う 際の	
開	もに、事例研究の実践的	様々な場面における関わり方を理解する。	
	な展開方法を修得する。	・指導・支援に当たっての留意点を踏まえつ	
		つ、事例検討・事例研究における指導・支	
		援の実践的な展開方法(会議の設定と準	
		備、介護支援専門員との関係構築、傾聴、	
		承認、指導・支援の具体的な展開及びまと	
		めと振り返り)を修得する。	

別紙3 主任介護支援専門員更新研修

研修課目	目的	内容	時間数	講師・指導者
〇介護保険制度	介護保険制度の最新	・介護保険制度の最新の動向、地域包括ケア	講義3時	介護保険制度における
及び地域包括	の動向を踏まえ、地域包	システムの構築や地域共生社会の実現に	間	介護支援専門員や居宅
ケアシステム	括ケアシステムの構築	向けた取組及び課題、地域包括ケアシステ		及び施設サービス等に
の動向	や地域共生社会の実現	ムの構築における介護支援専門員及び主		ついて十分理解をし、相
	に向けた現状の取組と	任介護支援専門員の役割について講義を		当の知見を有する者。
	課題を理解し、主任介護	行う。		
	支援専門員として果たす	・利用者やその家族を支援する上で関連する		介護支援専門員協会が
	べき役割を再認識する。	最新の制度、動向及び社会資源の活用並		実施する主任介護支援
		びに関係機関等との連携やネットワーク構		専門員指導者研修会修
		- - 築に関する講義を行う。		了者。
		 ・介護保険制度及び介護支援専門員を取り巻		
				 主任介護支援専門員。
		踏まえた、介護支援専門員に対する指導・		三重県介護支援専門員
		支援に関する講義を行う。		 実務研修指導者。
〇ケアマネジメ	高齢者の権利を擁護	・介護支援専門員が備えるべき、利用者本	講義2時	
ントの実践に	する上で必要な制度等	位、自立支援、公正中立、人権の尊重、守	間	 三重県内の事業所で勤
おける倫理的	の動向を確認し、個別支	秘義務、利用者のニーズの代弁等の倫理		務する国または三重県
な課題に対す	援において直面しやすい	に関する講義を行う。		ケアマネジメントリーダ
る支援	倫理面の課題への対応	・高齢者の権利擁護や意思決定支援(認定		一研修修了者。
	に係る介護支援専門員	身寄りのない高緒、看取りのケース等)に関する		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	への指導・支援について	制度等について講義を行う。		その他研修講師、演習
	理解する。	・個別支援において直面しやすい倫理面の課		指導の実績等を勘案し
		題への対応に係る介護支援専門員への指		甲が適当と認めた者。
		導・支援の方法についての講義を行う。		
Oリハビリテー	リハビリテーションや	・リハビリテーションや福祉用具等の活用をす 	講義2時	特定の課目について
ション及び福	福祉用具等を活用する 	るに当たって重要となる医師やリハビリテ 	間	は、国の要綱に基づく講
祖用具の活用	に当たっての知識や関	ーション専門職等との連携方法等ネットワ		師であること。
に関する理解	連職種との連携方法、イ	ークづくりの実践について、課題や不足し		ווייף כמטיסיבב _י
	ンフォーマルサービスも	ている視点を認識し分析する手法及び介		
	含めた地域の社会資源	護支援専門員に対する改善指導に関する		
	を活用したケアマネジメ	講義を行う。		
	ントについて理解する。	・リハビリテーションや福祉用具等の活用を検		
	実践上の課題や不足	討するに当たり、効果的なものとなるようイ		
	している視点を認識し分	ンフォーマルサービスも含めた地域の社会		
	析する手法について理	資源を活用したケアマネジメントの実践に		
	解する。	おいて、社会資源の開発など地域づくりの		
		視点を含め、課題や不足している視点を認識しいにするまた。		
		識し分析する手法及び介護支援専門員に 対する改善指導に関する講義を行う。		
〇主任介護支援	 	対 9 句以普拍等に 関 9 句碑我を打り。 ・「適切なケアマネジメント手法」の基本的な考	講義及び	
シエエハ 改义版	・心をなってくかした	・過ッなファマイノアンドナ広」の基本的は方	冊我及い	

専門員として	ント手法」の「基本ケア」	え方及び高齢者が有する疾患に関係なく	演習3時
の実践の振り	の内容を踏まえ、主任介	想定される支援内容及び多職種との情報	間
返りと指導及	護支援専門員としての実	共有において必要な視点を整理した「基本	
び支援の実践	践の振り返りを行うこと	ケア」について理解する。	
・生活の継続及	により、実践上の課題や	・各自が担当している主任介護支援専門員と	
び家族等を支	 不足している視点を認識	しての実践事例について振り返り、意見交	
える基本的な	し分析する手法を深め	換等を通じて、課題や不足している視点を 	
ケアマネジメ	る。	認識し分析する。分析に必要な根拠を明確	
ント		にすることにより改善策を講じ、資質向上	
	また、分析結果を踏ま	に向けた介護支援専門員に対する指導・支	
	えた資質向上に必要な 	援を実践することができる知識・技術を修	
	取組と実践における改	得する。	
	善策を講じることができ	・「基本ケア」を踏まえた支援方法を検討する	
	る知識・技術を修得す	に当たり、効果的なものとなるようインフォ	
	る。	ーマルサービスも含めた地域の社会資源 たチ田」たケマフさいか、小の実践にない	
		を活用したケアマネジメントの実践におい て、社会資源の開発など地域づくりの視点	
		C、社会資源の開発など地域づくりの税点 を含め、課題や不足している視点を認識し	
		一を含め、味趣や不足している祝点を認識し 分析する手法及び介護支援専門員に対す	
		うがする子伝及の方護文援寺门員に対す る改善指導に関する講義を行う。	
・脳血管疾患の	 脳血管疾患のある方	・脳血管疾患に特有な検討の視点や想定さ	講義及び
ある方のケア	のケアマネジメントに関	れる支援内容を整理した「適切なケアマネ	演習5時
マネジメント	する事例を用いて主任	ジメント手法」の「疾患別ケア(脳血管疾患	間
マホンメント	介護支援専門員としての	プァンド子法」の「疾患がアアへ脳血管疾患 がある方のケア)」について理解する。	IHJ
	実践の振り返りを行うこ	・各自が担当している脳血管疾患のある方の	
	とにより、実践上の課題 	ケアマネジメントに関する事例(居宅サービ	
	や不足している視点を認	ス計画等)について主任介護支援専門員と しての実践を振り返り、意見交換等を通じ	
	識し分析する手法を深め	しての美銭を振り返り、息見交換等を通し て、課題や不足している視点を認識し分析	
	る。	て、味趣や不足している税点を認識し方例 する。分析に必要な根拠を明確にすること	
	また、分析結果を踏ま	「により改善策を講じ、資質向上に向けた介	
	えた資質向上に必要な	護支援専門員に対する指導・支援を実践す	
	取組と実践における改	ることができる知識・技術を修得する。	
	善策を講じることができ	・脳血管疾患のある方の支援方法を検討する	
	 る知識・技術を修得す	に当たり、効果的なものとなるようインフォ	
	る。	ーマルサービスも含めた地域の社会資源	
		を活用したケアマネジメントの実践におい	
		て、社会資源の開発など地域づくりの視点	
		を含め、課題や不足している視点を認識し	
		分析する手法及び介護支援専門員に対す	
		る改善指導に関する講義を行う。	
認知症のある	認知症に関する事例	・認知症に特有な検討の視点や想定される支	講義及び
方及び家族等	を用いて主任介護支援	援内容を整理した「適切なケアマネジメント	演習6時
を支えるケア	専門員としての実践の振	手法」の「疾患別ケア(認知症がある方のケ	間
マネジメント	り返りを行うことにより、	 ア)」の内容を理解する。	
	1	<u> </u>	l

実践上の課題や不足している視点を認識し分析する手法を深める。

また、分析結果を踏ま えた資質向上に必要な 取組と実践における改 善策を講じることができ る知識・技術を修得す る。

- ・各自が担当している認知症がある方のケアマネジメントに関する事例(居宅サービス計画等)について主任介護支援専門員としての実践を振り返り、意見交換等を通じて、課題や不足している視点を認識し分析する。分析に必要な根拠を明確にすることにより改善策を講じ、資質向上に向けた介護支援専門員に対する指導・支援を実践することができる知識・技術を修得する。
- ・認知症の要介護者等及び家族を支援するに 当たり重要となる医療職をはじめとする多 職種や地域住民との連携方法等ネットワー クづくりの実践について、課題や不足して いる視点を認識し分析する手法及び改善 指導に関する講義を行う。
- ・認知症である要介護者等の支援方法を検討するに当たり、効果的なものとなるようインフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの実践において、社会資源の開発など地域づくりの視点を含め、課題や不足している視点を認識し分析する手法及び介護支援専門員に対する改善指導に関する講義を行う。

・大腿骨頸部骨 折のある方の ケアマネジメ ント

大腿骨頸部骨折のあ る方のケアマネジメント に関する事例を用いて 主任介護支援専門員と しての実践の振り返りを 行うことにより、大腿骨 頸部骨折により生活機 能の低下がある方のケ アマネジメント等に関す る実践上の課題や不足 している視点を認識し分 析する手法を深める。 また、分析結果を踏ま えた資質向上に必要な 取組と実践における改 善策を講じることができ る知識・技術を修得す る。

- ・大腿骨頸部骨折に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア(大腿骨頸部骨折がある方のケア)」の内容を理解する。
- ・各自が担当している大腿骨頸部骨折のある 方のケアマネジメントに関する事例(居宅サービス計画等)について主任介護支援専門 員としての実践を振り返り、意見交換等を 通じて、課題や不足している視点を認識し 分析する。分析に必要な根拠を明確にする ことにより改善策を講じ、資質向上に向け た介護支援専門員に対する指導・支援を実 践することができる知識・技術を修得する。
- ・大腿骨頸部骨折のある方の支援方法を検 討するに当たり、効果的なものとなるようイ ンフォーマルサービスも含めた地域の社会 資源を活用したケアマネジメントの実践に おいて、社会資源の開発など地域づくりの 視点を含め、課題や不足している視点を認 識し分析する手法及び介護支援専門員に

講義及び 演習5時 間

			•
		対する改善指導に関する講義を行う。	
・心疾患のある	心疾患を有する方の	・心疾患に特有な検討の視点や想定される支	講義及び
方のケアマネ	ケアマネジメントに関す	援内容を整理した「適切なケアマネジメント	演習5時
ジメント	る事例を用いて主任介	手法」の「疾患別ケア(心疾患がある方のケ	間
	護支援専門員としての実	ア)」の内容を理解する。	
	践の振り返りを行うこと	・各自が担当している心疾患を有する方のケ	
	により、実践上の課題や	アマネジメントに関する事例(居宅サービス	
	 不足している視点を認識	計画等)について主任介護支援専門員とし	
	し分析する手法を深め	ての実践を振り返り、意見交換等を通じ	
	3. Talks	て、課題や不足している視点を認識し分析	
	る。 また、分析結果を踏ま	する。分析に必要な根拠を明確にすることにより改善策を講じ、資質向上に向けた介	
		護支援専門員に対する指導・支援を実践す	
	えた資質向上に必要な	では、またいできる知識・技術を修得する。	
	取組と実践における改	・心疾患のある方の支援方法を検討するに当	
	善策を講じることができ	たり、効果的なものとなるようインフォーマ	
	る知識・技術を修得す	ルサービスも含めた地域の社会資源を活	
	る。	用したケアマネジメントの実践において、社	
		会資源の開発など地域づくりの視点を含	
		め、課題や不足している視点を認識し分析	
		する手法及び介護支援専門員に対する改	
		善指導に関する講義を行う。	
・誤嚥性肺炎の	誤嚥性肺炎の予防の	・誤嚥性肺炎の予防における「適切なケアマ	講義及び
予防のケアマ	ためのケアマネジメント	ネジメント手法」の「基本ケア」の重要性を	演習5時
ネジメント	に関する事例を用いて	再確認する講義を行う。	間
	主任介護支援専門員と	・誤嚥性肺炎の予防における検討の視点や	
	しての実践の振り返りを	想定される支援内容を整理した「適切なケ	
	行うことにより、実践上	アマネジメント手法」の「疾患別ケア(誤嚥	
	の課題や不足している	性肺炎の予防のためのケア)」の内容を理	
	視点を認識し分析する	解する。	
	手法を深める。	・各自が担当している誤嚥性肺炎の予防のた	
	すぶを深める。 また、分析結果を踏ま	めのケアマネジメントに関する事例(居宅サ	
		ービス計画等)について主任介護支援専門	
	えた資質向上に必要な	員としての実践を振り返り、意見交換等を	
	取組と実践における改	通じて、課題や不足している視点を認識し	
	善策を講じることができ	分析する。分析に必要な根拠を明確にする	
	る知識・技術を修得す	ことにより改善策を講じ、資質向上に向け	
	a .	た介護支援専門員に対する指導・支援を実	
		践することができる知識・技術を修得する。	
		・誤嚥性肺炎の予防のための支援方法を検	
		討するに当たり、効果的なものとなるようイ	
		ンフォーマルサービスも含めた地域の社会	
		資源を活用したケアマネジメントの実践にお	
		いて、社会資源の開発など地域づくりの視	

		点を含め、課題や不足している視点を認識	
		し分析する手法及び介護支援専門員に対す	
		る改善指導に関する講義を行う。	
・看取り等におけ	看護サービスの活用	・各自が担当している看護サービスの活用に	講義及び
る看護サービ	が必要な事例を用いて	関する主任介護支援専門員としての実践	演習4時
スの活用に関	主任介護支援専門員と	事例について振り返り、意見交換等を通じ	間
する事例	しての実践の振り返りを	て、課題や不足している視点を認識し分析	
	行うことにより、看護サ	する。分析に必要な根拠を明確にすること	
	ービスの活用に係る実	により改善策を講じ、資質向上に向けた介	
	践上の課題や不足して	護支援専門員に対する指導及び支援を実	
	いる視点を認識し分析す	践することができる知識・技能を修得する。	
	る手法を深める。	 ・看取り等を含む看護サービスを活用するに	
	また、分析結果を踏ま	 当たって重要となる医師や看護師等との連	
	えた資質向上に必要な	 携方法等ネットワークづくりの実践につい	
	取組と実践における改	 て、課題や不足している視点を認識し分析	
	善策を講じることができ	する手法及び改善指導に関する講義を行	
	る知識・技術を修得す	う。	
	る。	・・・。 ・・看取り等を含む看護サービスの活用を検討	
		するに当たり、効果的なものとなるようイン	
		フォーマルサービスも含めた地域の社会資	
		源を活用したケアマネジメントの実践にお	
		いて、社会資源の開発など地域づくりの視	
		点を含め、課題や不足している視点を認識	
		し分析する手法及び改善指導に関する講	
		義を行う。	
・家族への支援	家族への支援の視点	・家族に対する支援に当たり重要となる関係	講義及び
の視点や社会	や社会資源の活用に向	機関や地域住民をはじめとする多職種との	演習6時
資源の活用に	けた関係機関との連携	連携方法等ネットワークづくりの実践につ	間
向けた関係機	が必要な事例を用いて	いて、課題や不足している視点を認識し分	
関との連携が	主任介護支援専門員と	析する手法及び改善指導に関する講義を	
必要な事例の	しての実践の振り返りを	行う。 ・関連する他法他制度(難病対策、高齢者虐	
ケアマネジメ	行うことにより、実践上	* 関連9つ他法他制度(無柄刈束、高断石窟 待防止、障害者施策、生活困窮者対策、仕	
ント	の課題や不足している	事と介護の両立支援、ヤングケアラー支	
	視点を認識し分析する	援、重層的支援体制整備事業等)の内容	
	手法を深める。	や動向に関する講義を行う。	
	また、分析結果を踏ま	・各自が担当している家族への支援の視点や	
	えた資質向上に必要な	他法他制度の活用が必要な事例に関する	
	取組と実践における改	主任介護支援専門員としての実践を振り返	
	善策を講じることができ	り、意見交換等を通じて、課題や不足して	
	る知識・技術を修得す	いる視点を認識し分析する。分析に必要な	
	る。	根拠を明確にすることにより改善策を講じ、	
		資質向上に向けた介護支援専門員に対す る生道及び支援を実践することができる知	
		る指導及び支援を実践することができる知	

識・技術を修得する。	
・家族への支援の視点や社会資源の活用に	
向けた関係機関との連携が必要なケース	
を検討するに当たり、インフォーマルサービ	
スも含めた地域の社会資源を活用したケア	
マネジメントの実践において、社会資源の	
開発など地域づくりの視点を含め、課題や	
不足している視点を認識し分析する手法及	
び介護支援専門員に対する改善指導に関	
する講義を行う。	